資料番号	総務４

令和８年３月５日
課　名　総務局人事課
担当者　行政経営担当監　野村
内　線　2251

コンプライアンスに係る職員の意識調査結果を踏まえた今後の取組について

１　要旨・目的

コンプライアンスに係る職員の意識調査の結果を踏まえ、改善に取り組む。

２　現状・背景

（１）　アンケート調査の概要

近年、職員による不適正事案が相次いでおり、組織として不適正事案の発生を防ぐ仕組みの構築や職員個人のコンプライアンス意識の向上を図ることが求められている。

このため、コンプライアンスに係る既存の取組についての職員の認知、認識及び実践状況に加え、組織風土や業務プロセスの状況等を幅広く把握し、今後のコンプライアンス施策の展開に活かすことを目的として知事部局の全職員を対象としたアンケート調査を実施した。

①　調査期間及び回答率

令和７年 12 月１日～12 月 26 日、回答率 44.3%（2,538/5,728）

②　調査内容（全 57 問）

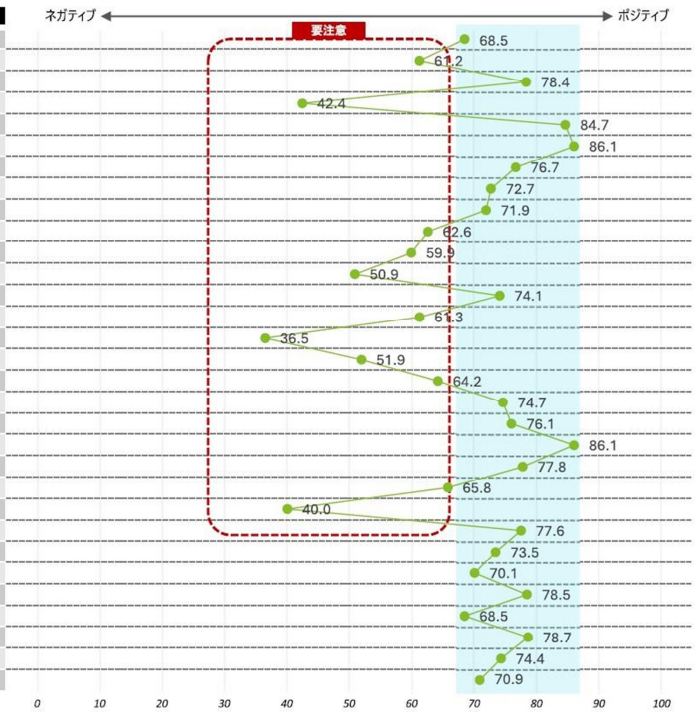
ア　属性（７問）
イ　意識・価値観（14 問）
ウ　既存コンプライアンス施策への理解度（19 問）
エ　組織風土・風通し（17 問）

（２）　調査の結果

①　調査結果

全体としての点数は高いが、内部統制評価報告書の認知度、リスク評価シートの活用度、業務に関するプレッシャーなどについては点数が低かった。

#	カテゴリ	設問文（概要）
#08	意識・価値観	仕事へのやりがい
#10		組織へのロイヤルティ
#11		コンプライアンスの範囲認識
#12		内部統制評価報告書の認知度
#13		広島県職員倫理要綱の認知度
#15		起案時の根拠添付の有無
#16		職場でのコンプライアンス疑義事案の有無
#19		担当業務におけるリスク理解の有無
#20		人事評価制度への理解度
#21		自身の人事評価への納得度
#23	既存コンプライアンス施策への理解度	コンプライアンス研修の有用度
#25		内部統制通信の閲覧度
#32		チェックリストの活用度
#34		文書処理簿の活用度
#36		リスク評価シートの活用度
#38		不祥事時の報告ルート・期限等の理解度
#39		各取組と内部統制との関連性の認識度
#41	組織風土・風通し	職場の風通しの良さ
#43		疑問のある上司からの指示に対する対応
#45		上司へミスを速やかに報告できるか
#47		上司からの適切な指示・フィードバックの有無
#48		職場での情報共有の十分性
#49		業務に関するプレッシャーを感じないか
#51-1		職場での個人情報の適正管理性
#51-2		職場での公文書の適正管理性
#53-1		職場でのミス防止の仕組みの十分性
#53-2		職場での再発防止の取組みへの十分性
#53-3		職場での当事者意識の十分性
#54		職場でのワークライフバランスの尊重度
#55		職場でのハラスメントに関する意識
#56		職場でのハラスメント疑義事案の有無



②　分析結果に基づく仮説と改善施策

設問の分類	分析結果に基づく仮説	改善施策
意識・価値観	・コンプライアンスの意識・価値観に係る全体の意識レベルは高い ・内部統制評価報告書の認知度など、具体的な取組等に関する設問では、点数が低く、情報提供の機会不足、配信方法の見直し等が必要 ・コンプライアンス違反に関する理解度や感度について、管理職と非管理職の間で差異が生じ、非管理職によるコンプライアンス違反を助長している可能性がある	①コンプライアンス施策に係る全体像の提示 ②コンプライアンス推進体制の整備 ③コンプライアンス関連情報の発信強化 ④コンプライアンス研修の見直し ⑤コンプライアンス関連ツールの強化 ⑥プレッシャー緩和策の強化
既存コンプライアンス施策への理解度	・非管理職は管理職と比較して点数が低く、非管理職において、コンプライアンス施策の目的や関連性が腹落ちしていない可能性が高い ・本県が実施している各種施策間の連携に弱みがある	
組織風土・風通し	・職場の風通しは良いが、業務上のプレッシャーが非常に高く、過大なストレス要因となっている ・プレッシャーについて管理職と非管理職で差が見られず、組織全体の共通の問題（業務領域の拡大、求められる品質の高度化、優先順位付けの誤り等）の可能性が伺われる	

3　今後の取組

（1）　改善施策に基づく取組内容

意識調査の分析結果に基づく仮説と改善施策を踏まえ、次の取組を令和８年度から順次実施する。

改善施策	取組内容（検討項目）
①コンプライアンス施策に係る全体像の提示	コンプライアンス基本方針を策定し、全職員に周知することにより、迷った際の判断の拠り所を統一し、各所属での自律的実践及び振返りの促進
②コンプライアンス推進体制の整備	関係部署の役割分担の見直しなど、組織体制の強化による効果的なリスク管理やコンプライアンスの推進
③コンプライアンス関連情報の発信強化	内部統制通信を核としつつ、コンプライアンス関連情報が受手（職員）に届きやすく、施策に対する認知度と理解度が高まるよう配信方法やコンテンツの最適化
④コンプライアンス研修の見直し	階層別の研修の実施や研修内容の見直しを行う等、コンプライアンス意識、感度に関する役職差の是正
⑤コンプライアンス関連ツールの強化	コンプライアンス関連ツールの統合や簡素化など利便性の向上による活用促進。報告、相談等のルートの認知度を高めるツールの整備による初動の遅れや報告漏れの抑制

（2）　業務プロセスの見直し

プレッシャーの緩和や、不正の動機・機会の低減を図るため、引き続き業務の効率化や業務負荷の平準化など、業務負荷に起因するミスや不正が構造的に起こりにくい業務プロセスの見直しに取り組んでいく。